1

## 現状分析(ステップ2)の今後の進め方

## 令和6年1月19日(金) 長野市上下水道局

## 調査の流れ

R5年度 R6年度

STEP1

STEP2

STEP3

#### 基礎検討

#### 既存資料の収集整理

- 地形分類図
- 水理地質断面図
- 一斉測水調査
- 地下水位等高線図

#### 水質分析

- ・ 主要イオン分析
- フッ化物イオン
- 酸素水素安定同位体

#### 現状分析

観測孔の設置 ①水源地内観測孔 ②場外観測孔

地下水位連続観測

- 水源地内 (観測孔・取水井)
- 場外

#### 水質分析

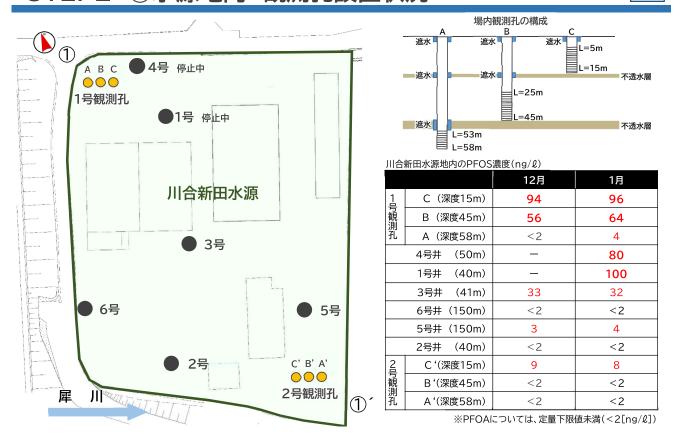
• 有機フッ素化合物

地下水解析

#### 対策検討

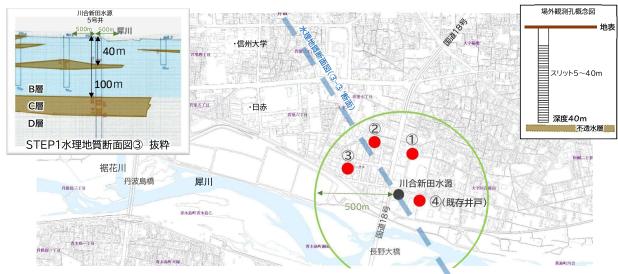
最適な取水方法を決定

3



## STEP2 ①水源地内 観測孔·取水井(断面図)

1号観測孔 (停止中) (停止中) -2号観測孔 1 (1)С 4号井 1号井 3号井 B' В 6号井 5号井 2号井 犀川 5~15m 5~15m 100 96 8 12~16m 12~16m 15~17m 20m 18~20m 19~37m 25~4511 21~37m 22~38m <2 64 <2 32 22~44m 80 40m 45~51m 49~51m 53~58m 53~58m 60m. <2 57~75m B層 80m C層 C層 100m D層 凡例 ] スリット 120m 108~ 137m 105~ 148m ■ 不透水層 測定値 有機フッ素化合物濃度(ng/l) 水源地北側が有機フッ素濃度が高く犀川に向かい低くなる 140m (1月分のPFOS濃度) 浅い帯水層ほど有機フッ素濃度が高い 150m-



ステップ1(豊水期)の状況から、川合新田水源へは西側からの涵養の可能性が高く、 水源は多量に揚水していることから、周辺の地下水を引き込む可能性がある。

候補地は半径500m以内で、周辺を囲むように新設観測孔①~③と既存井戸④の 合計4箇所を提案する。

場外観測孔は、水理地質断面図と水源地内の観測孔の結果から深度5~40mに スリットを設置する。

## 調査の流れ

R6年度

# STEP2

基礎検討

#### 既存資料の収集整理

STEP1

R5年度

- 地形分類図
- 水理地質断面図
- 一斉測水調査
- 地下水位等高線図

#### 水質分析

- 主要イオン分析
- フッ化物イオン
- 酸素水素安定同位体

#### 現状分析

#### 観測孔の設置

- ①水源地内観測孔
- ②場外観測孔

#### 地下水位連続観測

- 水源地内 (観測孔・取水井)
- 場外

#### 水質分析

• 有機フッ素化合物

地下水解析

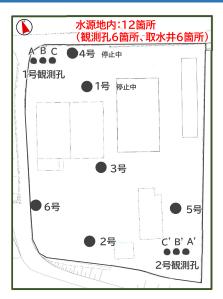
### 対策検討

最適な取水方法を決定

STEP3

5





#### ○地下水位連続観測

水源地内12箇所及び場外4箇所の合計16箇所に水位計を設置し、1時間ごとのデータを収集することで、水位の変動傾向を調査し、年間を通した地下水の流動状況を把握する。

#### 〇水質分析(有機フッ素化合物)

水源地内12箇所及び場外4箇所の合計16箇所を対象に**月1回の水質分析を実施し、変動傾向を把握する。** 

## STEP2 今後の予定

7

			S	STEP1	STEP2
	1 月	2 月	3 月	4月以降	
第2回専門家会議	19日				
水源地内(観測孔·水源井) 12箇所	水質分析	地下水位連続観測 水質分析 水質分析		水質分析	
場外観測孔 4箇所	観測孔地点検討・協議	現地作業		地下水位連続観測・水質分析水質分析	
(参考)一斉測水調査(渇水期)					
(参考)地下水流動評価(STEP1)まとめ					

地下水位連続観測及び水質分析は季節変動を把握するため1年間以上実施する。水質分析は、場外観測孔、水源地内観測孔・取水井を対象とし、月始めに実施する。

#### 実施期間

水源地内観測孔:令和6年1月~令和7年3月(予定)場外観測孔 :令和6年4月~令和7年3月(予定)